

## 第55回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

この夏の我が家と保険

三重県 高田中学校 一学年

小林 美月

今年の夏休み、母が入院し、手術をしました。八年前にも同じことがありましたが、私は保育園児だったので、事の重大さがよく分かっています。しかし、今回は私も中学生になり、母の体のことがとても心配でした。そしてそれ以上に、母が入院している間、自分のことや家事などが、自分たちでできるかどうか不安でした。

手術は無事に成功し、半月ほどで退院した母は、現在、自宅療養中です。そんな母が、退院後に郵送された入院中の領収書を見て、驚きながら言った言葉は、

「総医療費が、二百五十万円を超えとる。」

でした。私は、今回の入院で、そんなにお金がかかったのかとびっくりし、思わず、

「お母さん、仕事辞めたのに、払えるの？」

と叫んでしまいました。でも、母はにんまりしながら、

「大丈夫、大丈夫！」

と言うのです。私は、不思議でなりませんでした。なぜなら、いつもの母なら、

「お金は、大事だよ。」

とか言うはずなのに、と思ったからです。そして、なぜ支払いが大丈夫だったのか、という話をしてくれました。

私たちには、もしも病気やケガなど予期しない出来事が起こった時、お金に困らないように「保障」というものがあるそうです。例えば、私が病院にかかった時、我が家は医療費の三割しか負担していなくて、残りの七割は公的保障として、別のところから支払ってもらっているそうです。さらに、私が住んでいる市では、中学三年生までの子どもの医療費は、福祉医療費として支払った分も後から戻ってくるそうです。母の場合は、高額療養費制度というものがあって、医療費の自己負担額が限度額を超えた場合、超過した分を給付してもらえるので、今回の入院で実際に支払ったのは、総医療費の五パーセント位だったそうです。また、母は病気になる前に私的保障として生命保険や医療保険に入っていたので、請求をすればいく

## 第55回中学生作文コンクール

らかのお金が給付されるそうです。それを聞いて私は安心しました。そして、ありがたい保障が私たちの身の回りにはいろいろあるのだな、と思いました。今までは人生ゲームやコマースャルでしか聞いたことのなかった「保険」というものが、少し身近に感じられました。さらに、母は、

「若いころ、保険のことがよく分からなかったから、勧められるままにずいぶんと高い保険料を払っていたこともあったけど、保険の見直しをしたり、少しずつ貯金もしたりしてきた。人生の中の高い買い物の一つだから、保険はよく考えて選ばないと。」

とも話してくれました。それを聞いて、私は自分も働くようになってから、保険や貯金についていろいろと勉強していきな、と思いました。

「ところで、私も何か起きた時のための保険って、入っているの？」と聞くと、

「うん、0歳の時からね。」

と言って、またにんまりと笑う母でした。